

## 各種調査結果からみた課題

①：人口等データ、②：子育て世代アンケート、③：若者アンケート、④：転出者アンケート、⑤：転入者アンケート、⑥：不動産事業者ヒアリング、⑦子育て中の親ヒアリング、⑧ユース世代ワークショップ

	問題点	要因・特徴・ニーズ等	検討課題
住宅需要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周辺都市(稲沢市、清須市、あま市、名古屋市中村区、中川区)よりも、住宅着工件数は少ない。①</li> <li>・名古屋市からの住宅需要の範囲は、西尾張中央道以東にとどまり、津島市では期待できない。⑥</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て世代の市外への住み替え理由は、通勤・通学が不便、交通が不便等の交通利便性の問題が大きな理由となっている。②</li> <li>・名古屋駅までは名鉄線で 30 分。JR沿線の岐阜、一宮、大府、刈谷に比べて時間がかかる。</li> <li>・あま市、清須市等の周辺都市に比べて津島市の住宅価格は安い。⑥</li> <li>・名古屋駅周辺の再開発ラッシュで、名駅周辺の就業者数の増加が予想される。</li> <li>・名古屋へ通勤できる交通が便利な住宅地を求める一方、自然とふれあいながら住める津島の環境が良いという意見もある。⑧</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○鉄道駅周辺地域における住宅開発 <ul style="list-style-type: none"> <li>－名駅への通勤が便利で、割安感のある住宅の供給。名古屋からの住宅需要の受け皿づくり</li> <li>－鉄道利用者の増加による鉄道の利便性の維持・向上</li> </ul> </li> <li>○ゆとりのある住宅地の整備 <ul style="list-style-type: none"> <li>－公園や緑が近くにある住宅地の整備</li> </ul> </li> <li>○都市のイメージアップ <ul style="list-style-type: none"> <li>－観光イベント、PR等による津島市の認知度の向上とイメージアップ</li> </ul> </li> </ul>
結婚・出産	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての母親の年齢で、出生数が減少。①</li> <li>・出産年齢の 20 歳から 49 歳までの女性が転出超過。①</li> <li>・合計特殊出生率が平成 23,24 年に大きく低下。特に、30 歳代の女性の出生率の低下が大きい。①</li> <li>・15 歳以下の子どもの数は、年齢が若くなるにつれて人口が減少しており、今後ますます子どもが減少する。①</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・結婚を理由の転出割合が高い。④</li> <li>・未婚の人でも、約5割は結婚する意向がある。②</li> <li>・未婚の理由は、「適当な相手に巡り会わない」が半数以上と最も多い。男性は「経済的不安がある」も半数以上と多い。②</li> <li>・子どもを持つための必要なことは「子育てに金がかかりすぎない」が圧倒的に多い。「保育サービスの充実」「働きながら子育てでき</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○若い人の交流の場の創出 <ul style="list-style-type: none"> <li>－若い人の交流イベント</li> <li>－婚活支援</li> </ul> </li> <li>○子育て世帯への経済的支援 <ul style="list-style-type: none"> <li>－医療費・保育料等の負担軽減</li> <li>－多子世帯への経済的支援</li> </ul> </li> <li>○結婚・子育て期の若い人の職場の確保(女性も働ける環境整備) <ul style="list-style-type: none"> <li>－観光サービス業の振興</li> </ul> </li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男女とも未婚率が上昇。①</li> <li>・30歳から64歳の男性の単独世帯が大幅に増加。30歳未満の単独世帯は減少。①</li> <li>・欲しい子どもの数は「2人」と「3人」の割合が高いが、実際の子どもの数は、「2人」「1人」の割合が高い。②</li> </ul>	<p>る職場環境」「子どもがのびのび育つ環境」も多い。②</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>－起業支援</li> <li>－産業用地開発による企業誘致</li> </ul>
<p>転出・定住</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男性は30歳代前半まで、女性は40歳代前半までの年齢層で転出超過。①</li> <li>・その結果、出産期の女性が減少し、出産数も減少。①</li> <li>・愛西市、あま市、蟹江町、名古屋市の中川区への転出が多いが、愛西市への転出が突出して多い。①</li> <li>・愛西市、あま市、名古屋市中川区、稲沢市からの転入も多いが、それ以上に転出が多い。特に、愛西市への転出超過が多い。①</li> <li>・子育て世帯の定住意向は、定住意向者は4割いるが、住み替え意向者も3割以上と多い。②</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・転出の転出理由は、「結婚」が3割、「親や子どもと同居」が2割と、結婚や家族との関係が主な理由となっている。④</li> <li>・単身女性の転出理由は、「結婚」による転出が6割弱を占める。また、転出先は分散しているが、愛西市などの海部地域が3割、名古屋市が2割弱と多い。④</li> <li>・世帯で転出した人の理由は、「持ち家購入」が約3割、「親又は子どもと同居」と「親の近くに住む」が約3割、「結婚」が約1割。④</li> <li>・子育て世代の住み替え理由は、「通勤・通学が不便」「子育て環境が悪い」「交通の便が不便」「結婚」「住宅が狭い」など、交通問題と子育て環境が主な理由。②</li> <li>・津島市の子育てサービスの水準は、周辺都市に比べて低いという評価が定着。替え歌で歌われるほど。⑦ ⇒子育てサービスの低さから、結婚を機に市外に転出していると推察される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子育て環境の整備 <ul style="list-style-type: none"> <li>－医療費補助、保育サービスなどの充実</li> <li>－子どもの遊び場、児童館等の充実</li> <li>－地域ぐるみで子育てを応援する体制</li> </ul> </li> <li>○鉄道駅周辺地域における住宅開発 <ul style="list-style-type: none"> <li>－通勤・通学の利便性の高い住宅供給</li> </ul> </li> </ul>

<p>転入</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・転入者数は、近年はゆるやかな減少傾向が続く。①</li> <li>・0～4歳の転入数が減少しており、乳幼児のいる世帯の転入が少なくなっている。①</li> <li>・持家の着工件数は、周辺都市に比べて少ない。①</li> <li>・転入者数は、周辺都市からの転入が多いが、名古屋市全体で見れば、名古屋市からの転入者数が圧倒的に多い。名古屋市への転出者も多いが、その数は拮抗しており、転出超過にはなっていない。①</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・転入数は、「25～29 歳」を中心に、「20～24 歳」「30～34 歳」の転入数が多い。①</li> <li>・転入理由は、「持ち家購入」と「転勤・転職」が多い。また、転入場所の決定理由は、「駅やバス路線に便利」「職場や学校に近い」が多い。⑤</li> <li>・転入者の住宅は、民間賃貸住宅が 35%と最も多い。「自分の持家」と「実家」は2割強。⑤</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○鉄道駅周辺地域における住宅開発</li> <li>－公共交通の利便性の高い住宅供給</li> <li>－転勤・転職者用の賃貸住宅の供給促進</li> </ul>
<p>定住環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て世帯の定住意向は、定住意向者は4割いるが、住み替え意向者も3割以上と多い。②</li> <li>・若者の定住意向者は、住み続けたいと将来は住みたいという定住意向のある人と、市外に住みたい意向のある人は、ほぼ同じ割合で分かれている。③</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもを産み育てやすい環境とするためには、「子どもの医療費の負担軽減」が最も多いほか、「安心して子供を遊ばせる広場・公園の整備」「安心して出産・子育てできる医療体制」「児童手当の拡充」が多い。②</li> <li>・定住したくなるためには、「子育て支援・子育て環境の充実」と「道路や公共交通網の整備」が約 40%と、子育て支援と交通の利便性の向上が求められている。②</li> <li>・転入者は津島市をよくするために、「子育て支援サービスが充実すること」と「医療、高齢者・障がい者支援が充実すること」、「電車、バスなどの交通の便が良いこと」といった福祉サービスと交通の利便性を期待。⑤</li> <li>・医療費助成をはじめとする津島市の子育て</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子育て環境の整備</li> <li>－医療費補助、保育サービスなどの充実</li> <li>－医療体制の充実</li> <li>－地域ぐるみで子育てを応援する体制</li> <li>○公共交通の利便性の向上</li> <li>－鉄道のサービス水準の維持・向上</li> <li>－バス路線の充実</li> <li>○子育て世帯と地域との交流</li> <li>－多様な年代の人が集まることができる場づくり</li> </ul>

		<p>支援サービスは、周辺都市に比べて低いという評価が定着。⑦</p> <p>・子育てなどを通じて近所の人とのふれあいや支え合いのある暮らしを望んでいる。⑧</p>	
雇用・仕事	<p>・第3次就業者数はほぼ横ばい傾向にあるが、第2次産業就業者数は平成7年以降減少が続く。①</p> <p>・産業別就業者数では、男性は、製造業、卸売・小売業、建設業の就業者数が多く、女性は卸売・小売業、医療・福祉、製造業の就業者数が多い。①</p> <p>・若い就業者の割合が大きい情報通信業と複合サービス業の就業者数は少ない。①</p> <p>・若者の就職してみたい地域は、「名古屋市」が約36%で「津島市内」は約15%にとどまる。③</p> <p>・人口一人当たりの家計所得は、愛西市よりもわずかに上回っているが、津島市と愛西市は周辺地域の中では一番低くなっている。①</p>	<p>・若者が津島の外で就職したい理由は、「希望する企業や仕事がない」が6割と職場が少ないことが理由。③</p> <p>・将来、職業・就職先を選ぶ時の重視項目は、「賃金」、「休日や勤務時間」が多く、「やりがいがある」、「自分に向いている」といった仕事の内容も重視しているが、それ以上の待遇条件を重視 ③</p> <p>・津島市で就職するためには、「企業誘致して働き場を増やす」、「労働条件が良くなるように市内企業に働きかける」といった職場の拡大と市内企業の労働条件の改善を要望。③</p> <p>・古き良き風情のある町並みの建物を、オシャレなカフェやレストラン、クリエイティブな仕事場とすれば、若者が働きやすくなり、魅力的なまちになる。⑧</p>	<p>○産業用地の開発</p> <p>－企業の数・種類の拡大</p> <p>－雇用の拡大</p> <p>○観光振興</p> <p>－若い人の雇用の場の確保</p> <p>○創業支援</p> <p>－地域に根づいた雇用の確保</p> <p>○町並みの中の伝統的な建物の活用</p> <p>－店舗やオフィスへのイノベーション</p>